

早稲田大学 商学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題は昨年と同じ。読解問題4題に会話文問題1題も変更なし。分量は昨年並み、レベルは昨年より低下したか。75%程度を合格ラインと考える。商学部は例年記述式問題が出題されるが、昨年は1題、今年度はいよいよゼロとなったのが今年度の最大の特徴。昨年、記述式の英文和訳問題がなくなり、今年度は英作文問題もなくなった。その分ということではないであろうが、語整序問題が今年度も出された。一応、これを記述式と言え言えなくもない。会話文問題が例年にも増して難しかった。会話独特の表現でしかも受験ではまずやらないものが狙われたのだ。読解ではリードのある内容一致問題とT/F問題は従来通り出題された。このタイプの設問はどうしても悩むことが多い。今年度は比較的に楽だったとはいえ、ここでしっかり得点できるかがポイントとなろう。記述式問題がなくなったので、このリードのある内容一致問題とT/F問題で差がつきそうだ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	会話文問題	例年通りの会話文問題。欠文問題は会話文では必須の設問形式。今年度は例年以上に会話独特の表現が狙われた。しかも大学受験としてはめったに扱わない表現がほとんどであった。You are all set. 「すべて完了です」 That works for me. 「それでOKです」 Fire away. 「どうぞ何でも聞いてください」 はかなり難しい。I see your point. 「おっしゃることはわかります」 は知っている受験生もいるか。下線部の意味を問うものは can't make head or tail of ~ 「～はまったく理解できない」と beat around the bush 「遠回しに言う」 は基本熟語。dive in 「始める」 は前後で類推可能であろう。今年度に限れば、この大問は欠文問題で差がつくのは明白だ。	やや難
II	読解問題	分量は昨年並み、レベルは比較的楽だったと思われる。商学部が得意とするT/F問題がここに出ている。1～5の選択肢の該当箇所は本文に出てくる順序通りであった。1の選択肢の該当箇所は本文の最初のほうで、5の選択肢の該当箇所は最終段落にあった。受験生に親切な作り方をしていると言えるだろう。TとFは選択肢が5つの場合、3と2、2と3になることが多い。選択肢を作る際に無意識のうちにそうしてしまうのかもしれない。ここもそうになっている。1を見てみよう。 1. The number of people who speak only one language is less than the number of people who speak multiple languages. (第1段落第2文) ~ there are fewer monolingual speakers in the world than bilinguals and multilinguals. 該当箇所も見つけやすく、あまり紛れはない。他の選択肢もこのような感じだ。空所補充問題もそれほど難しくなく、良問に属するものであろう。 ~we would expect to see a lower incidence of Alzheimer's disease in bilinguals than in monolinguals, or (ii) a later onset of Alzheimer's for bilinguals. or at least は前で述べたことが少し言い過ぎ、後ろで述べるのが妥当であることを表す。バイリンガルのほうがアルツハイマーが起こりにくいというのは言い過ぎで、バイリンガルのほうがよりあとで発症するというのが妥当だと言っているのだ。onset はやや難しい単語。下線部の意味を問うものもタイトルを問うものも紛れがないので、しっかり本文を読めていれば正解できるだろう。	やや易

番号	出題内容	コメント	難易度
III	読解問題	<p>分量は昨年並み、レベルはやや低下したと言っているだろう。こちらのT/F問題も比較的紛れのないものであった。下線部の意味を問う問題も threatens, instructive, incentive とすべて知っていてもおかしくない単語が狙われた。空所補充問題を1つ見てみよう。</p> <p>Although a minority of women choose not to have children, the trend constitutes a genuine revolution, pointing to some unspoken (イ) to motherhood.</p> <p>although があるのだから、下線部と イ は逆接関係になる。もう一つは空所の後ろに to がある。この2点から resistance が正解。動詞の resist は他動詞だが、名詞の resistance は resistance to 「～に対する抵抗」となる。語整序問題は文の途中にあるので、空所の前後の関係をしっかり把握すること。ここは keep A from B がポイント。keep A from～ing 「Aが～するのを妨げる」の変形バージョンだ。</p>	やや易
IV	読解問題	<p>分量が増えたが、レベルはやや下がったと言えそうだ。リード文のある内容一致問題は法学部や国際教養学部よりかなり簡単と言えそうだ。ただ、読む前に選択肢にある固有名詞や数字、時や場所を表す表現、見たことのないような表現などを押さえて、読み進めていく途中で該当箇所だと気づくことが時間短縮になるであろう。一つ見てみる。</p> <p>1. The conventional wisdom of data privacy performance is that (b) firms with higher performance on customers' data privacy tend to have higher market valuation. (第3段落第1文) We found that the relationship between data privacy performance and firm's market valuation is more complicated than the conventional wisdom of "the more the better" suggests.</p> <p>そもそも conventional という語は「従来の」の意味で、今はそうでないという意味が含まれるのが基本。上の選択肢は従来の考え、本文の該当箇所は従来の考えより実際は複雑だと言っているのだが、結局従来の考えは単純すぎてダメだと言っているのだ。空所補充問題は MARCH レベルだろう。たとえば、On the one hand と On the other hand の対比、according to 「～によると」、comply with 「～に従う」、not A but instead B 「Aではなくその代わりにB」、not A but B のAとBは反意語になることがある、などの知識が問われている。</p>	やや易
V	読解問題	<p>分量、レベルとも昨年並みであろう。今年度の早稲田大学で3学部目の新型コロナウイルスがテーマだ。quarantine 「隔離」のような語は覚えておくといいだろう。設問1の2は人間科学部で出題されるような内容一致問題の形式。人間科学部の内容一致問題はリード部分が必ず what や why, how などの疑問詞で始まる特徴がある。3も見ておく。</p> <p>3. For a quarantine to be successful, (b) <u>it should be as short as possible and people must be made aware of the reason for it.</u> (第6段落) <u>~that quarantines be restricted to the shortest time period possible and that the public be given a clear rationale for such measures.</u></p> <p>quarantine の意味がわからなくてもどうにかなるであろう。rationale は数年前に早稲田で狙われたことがある語だが、後ろに for があるので、reason for の for と同じだと考えると reason の意味に近いのではと類推することができそうだ。設問3の(2)は、ambivalent と mixed が同意であることは入試で狙われたことがある。知識としても知っておくといいだろう。</p>	標準

[総合コメント]

全体として商学部は早稲田大学の中で解きやすい学部であるが、今年度はさらにやさしさに拍車がかかったかもしれない。ただ、それでも時間内に解き終わるのは大変なわけで、しかも高得点の争いのなるのは必至だ。いかにケアレスミスをなくすかも含めて、この学部の場合は解き終わったあとに確認する時間を確保することが結構重要となるかもしれない。